



車いすの犬、チロが死んだ。交通事故に遭い、後ろ脚がまひしたまま一カ月余。引き取り手が見つからず困っていた人間たちの気持ちを察したように十日朝、眠るように逝った。持ち主のいなくなると車いすだけが残された。

「飼い主が見つからないかしら」。チロのことを聞いたのは、昨年十二月中旬、担当している警察署の大好きな補導員からだ。津市平田の獣医岡本喜博さん(三三)のところに運び込まれたのは、昨年十一月末。腰の骨が折れ、せい

にしろ下半身が利かなな

き腫も傷ついていた。手術をしても二度と立てない。普通なら安楽死だが、話を聞いた動物好きの仲間が岡本さんを説得した。「車いすを作ろう」。そして飼い主を見つけたい。何かの助けになれば、と思い、記事にした。

反響はあった。記事の載っ

愛に包まれてチロ逝く

た十二月二十日、桑名市と高山市の女性二人から「殺さな

た。体力が衰え、せつかくの車いすも使えない日が続いた。

い」と岡本さん方に電話があ

った。見ていられなくなった。

あった。小牧市の中三の女の

「やっぱり安楽死しかないの

子は、「おいしいものを食べ

させてあげて」と平田を封鎖

してきた。だが、引き取り手

が激った。一月月のうちに、

は現れなかった。

いやでも情が移る。せめて正

月を、とチロは年を越した。

三が日。外へ連れ出してやる

と、チロは草むらに寝てゐ

て、ちつとと日光浴を乗

そのうち、床ずれがひどく

具合がおかしくなったのは

なつた。後ろ脚のつけ根にボ

うののわきに山のように積ま